

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 20

学校名・団体名	長南町立長南小学校
HPアドレス	なし
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域との協働による長南ふるさと学習の最終章
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>近年の町人口の減少に伴い、本校を含めた町内4小学校が本年度末に統合する。そのため、現在の長南小学校での教育活動ができなくなる。そこで、本校の最終年度の教育目標を改め、「ふるさとに誇りをもち、希望の空に向かって、たくましく生きる児童の育成」とした。教育目標達成のために、地域の豊かな教育資源を学習活動にとりいれ、地域の方との協働によるコミュニケーションや調べ学習・体験的な学習を通しふるさと長南を大切にしようとするふるさと学習に取り組んでみたい。</p>	

1 目標

本校最終年度として、ふるさと長南の教育資源の活用をまとめる学習をめざしたい。地域の体験的学習をとおして、地域の良さや問題点に気づき、思考し、表現することで、自ら学び、自ら考え、ふるさと長南を大切にしようとする児童を育成する。

2 活動内容・時期・特色

(1) 地域の歴史や先人について郷土館の方から体験的に学んだ。

ア 歴史・文化

- ・本町で発見された土器や能満寺古墳、長南城等を社会科で学ぶ歴史を関連させて、学習した。圏央道近くで発見された土器や古墳を地域の研究家から学び、当時の様子を話し合った。また、火起こし体験や土器作りに挑戦した。
- ・本町で教育を熱心にすすめ東京家政大学の創始者「渡邊辰五郎」の生い立ちや考え方、生き方について調べ、東京家政大学を訪問・見学し、新聞にまとめた。
- ・伝統工芸芝原人形を地域の後継者に教わり作るとともにその歴史をたどり、子どもの遊びや暮らしを調べた。
- ・長南の文化である「紅花染め」を保存会の方から学び体験した。紅花の歴史を寺の住職から聞いた。



イ 環境

- ・地域の田を借用し、田植えから収穫、米を使った料理までを体験的に学んだ。地域の農家の方からインタビューをしたり、コミュニケーションをしたりすることを通して、今後の町のビジョンや農業について話し合った。また、田んぼの周辺で見つかる動植物について調べ、生物について高等学校の先生に聞き生き物マップや生き物新聞、レッドリストなどにまとめ、米作りが環境保全に役立っていることを調べた。
- ・長南は千葉県産の蓮の特産地となっている。また国内産の小麦や枝豆が生産されている。地域の特徴を捉えるために、バスに乗り町巡りを行った。また、蓮作りや野菜づくりを農家の方に教わり、生産の苦労や工夫を体験的に調べてまとめた。近年、田ではスクミリンゴガイの被害が出ている。博物館研究者から学ぶ機会を設定し、年間の蓮作りカレンダーにまとめその課題をとらえ、地域の方や保護者を対象にポスター発表会をした。



ウ 食文化

地域でとれる野菜や米について成長の様子や栄養などについて調べ、地域のヘルスマイトさんと調理し地産地消のよさを実感した。

(2) 全校と地域の協働による取組

ア ふるさと遠足

全校児童が保護者、地域の方々と共に歩きながら、自分たちの調べた長南のよさを長南地区の旧所、名跡の変遷をたどりながらその場で紹介したり地域の人に聞いたりするふるさと遠足を実施した。



イ 凧あげ大会

江戸時代から続いている地域の「長南袖凧」を袖凧保存会の方から学び、地域の未来の願いを書いた凧を作り全校で凧揚げ大会を行った。和紙のよさについても学んだ。



ウ いきいきサロン

地域の高齢者と長南かるたを行ったり、地域の昔話を聞いたり、いきいきサロンで発表することを通して、思いやりの心や郷土愛を育てた。

(3) 思考力・表現力の育成を図る校内研究を行い、表現力を高めた。(年間・全学年) また、各学年の活動や学習を「ふるさと長南発表会」とし閉校式で地域の方々に発表した。また長南小の歴史とふるさと学習の成果をまとめ、児童の思いを込めた記念誌を作った。そして、地域の方に学習の成果から得られた思いや願い、未来の長南の町作りへの希望などについて発信した。

4 成果と課題

長南のよさや課題を再発見・再認識し、郷土を愛する心をもつとともに、新しい統合小学校の学校作りに向けて、自分の考えをもち、希望をもって将来の学校や町作りへの思いや願いを持つことができた。